

平成27（2015）年度入学者

学科教育科目

《学科教育科目》

科目名	音楽教育C		科目ナンバリング	C3031S-〇003
担当者氏名	田中 敬子、田村 幸造、津田 安紀子、藤田 浩恵、小林 未季、佐藤 裕子、森本 満穂子、田中 智子			
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル			

《授業の概要》

2クラス合同の授業ですが、隔週で集団授業⇄ピアノ個人レッスンとクラスが入れ替わります。集団授業では伴奏付け、律動のピアノ、即興演奏、初見演奏の訓練などをします。ピアノ個人レッスンでは、実習や就職試験に備えて、演奏力の向上を目指すとともに、レパートリーを増やします。

《テキスト》

【個人レッスン】今までに音楽の授業で使った教材
 【集団授業】適宜プリントを配布

《参考図書》

その他、資料等は必要に応じて配布します。

《授業の到達目標》

- マーチやスキップなどのリズム曲を弾くことができる。
- 電子ピアノの機能を生かして、様々な情景や動物等のイメージに合った伴奏を考えたり、弾いたりすることができる。
- 実習や就職試験に備え、自信をもってピアノ演奏や弾き歌いをすることができる。
- ピアノ曲、弾き歌いのレパートリーを増やす。

《授業時間外学習》

各自、毎日十分な練習を行い、完成度を高くして授業を受けるようにすること。

《成績評価の方法》

実技試験100%（ピアノグレード試験・集団授業内での小試験）
 試験結果はコメントを付して返却する。

《備考》

保育者として相応しいマナーを身に付けるため、授業を受ける前、受けた後の挨拶を徹底します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の説明、個人レッスンの担当教員との顔合わせ
2	クラス1（集団授業） クラス2（ピアノ）	【集団授業】律動のピアノ 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
3	クラス1（ピアノ） クラス2（集団授業）	【集団授業】律動のピアノ 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
4	クラス1（集団授業） クラス2（ピアノ）	【集団授業】即興演奏 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
5	クラス1（ピアノ） クラス2（集団授業）	【集団授業】即興演奏 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
6	クラス1（集団授業） クラス2（ピアノ）	【集団授業】初見演奏、ソルフエージュ 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
7	クラス1（ピアノ） クラス2（集団授業）	【集団授業】初見演奏、ソルフエージュ 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
8	クラス1（集団授業） クラス2（ピアノ）	【集団授業】コード、伴奏付け 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
9	クラス1（ピアノ） クラス2（集団授業）	【集団授業】コード、伴奏付け 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
10	クラス1（集団授業） クラス2（ピアノ）	【集団授業】移調奏、ソルフエージュ② 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
11	クラス1（ピアノ） クラス2（集団授業）	【集団授業】移調奏、ソルフエージュ② 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
12	クラス1（集団授業） クラス2（ピアノ）	【集団授業】律動のピアノの復習 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
13	クラス1（ピアノ） クラス2（集団授業）	【集団授業】律動のピアノの復習 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
14	クラス1（発表） クラス2（発表）	期末発表（ピアノ・弾き歌い等）
15	クラス1（発表） クラス2（発表）	期末発表（ピアノ・弾き歌い等）

《学科教育科目》

科目名	音楽教育D	科目ナンバリング	C3032S-0004
担当者氏名	井上 朋子、田村 幸造、津田 安紀子、藤田 浩恵、小林 未季、佐藤 裕子、森本 満穂子、田中 智子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

3クラスが2つに分かれて、集団授業⇔個人レッスンを90分の中で交互に行います。集団授業では、履修人数を考慮しながら、合唱、ボイスアンサンブル、トーンチャイム、ボディパーカッションなどのアンサンブルを行います。また個人レッスンでは、実習や就職試験に備えてピアノの個人指導を受けます。

《テキスト》

【集団授業】適宜プリントを配布
 【個人レッスン】今までに音楽の授業で使った教材

《参考図書》

その他、資料等は必要に応じて、担当教員から指示・配布します。

《授業の到達目標》

- 様々なアンサンブル活動を通して、表現力を磨くとともに、聴く耳、協調性を育む。
- 様々なアンサンブル活動に関する指導法や指揮法を学び、保育者自身の実践力を高める。
- レパートリーを増やししながら、より表現豊かなピアノ演奏、弾き歌いができるようになる。

《授業時間外学習》

各自毎日十分な練習を行い、完成度を高くして授業を受けるようにすること。

《成績評価の方法》

- 実技試験100%
- ※グレード試験受験票に演奏に対する講評を記入して返却します。

《備考》

学生コンサートの実施により、15回の授業のうち1回を学生コンサートの出席で振り替えることもあります。また、履修者の人数によって、内容、回数を変更する場合もあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の説明、個人レッスンの担当教員との顔合わせ
2	アンサンブルとピアノ①	【集団授業】トーンチャイムを使って① 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
3	アンサンブルとピアノ②	【集団授業】トーンチャイムを使って② 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
4	アンサンブルとピアノ③	【集団授業】ミュージックベルを使って 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
5	合唱とピアノ①	【集団授業】合唱練習と指揮法① 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
6	合唱とピアノ②	【集団授業】合唱練習と指揮法② 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
7	合唱とピアノ③	【集団授業】合唱練習と指揮法③ 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
8	合唱とピアノ④	【集団授業】合唱練習と合唱指導法① 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
9	合唱とピアノ⑤	【集団授業】合唱練習と合唱指導法② 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
10	合唱とピアノ⑥	【集団授業】合唱練習と合唱指導法③ 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
11	様々なアンサンブル①	【集団授業】ボイスアンサンブル・ボイスアンサンブルづくり① 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
12	様々なアンサンブル②	【集団授業】ボイスアンサンブル・ボイスアンサンブルづくり② 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
13	様々なアンサンブル③	【集団授業】アカペラ 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
14	様々なアンサンブル④	【集団授業】ボディパーカッション 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
15	まとめ	期末発表(ピアノ・弾き歌い)

《学科教育科目》

科目名	子どもの保健Ⅱ	科目ナンバリング	C3031S-●015
担当者氏名	西村 美穂代		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

乳児保育や子どもの保健で学んだ知識を基礎として、子どもの心とからだの健康問題や事故の特徴とその予防について理解し、保育現場において起こりうる様々な状況に対応するのに必要な技術を習得するとともに実践力を養う。

《テキスト》

『子どもの保健演習』 大西文子編集、中山書店

《参考図書》

子どもの保健 1 A・1 B で使用したテキスト

《授業の到達目標》

1. 発達段階に応じた観察・養護・援助ができるようになる。
2. 子どもが体調不良時や病気になったときの適切な正しい判断と対応ができる。
3. 応急処置や救急時の対応がすばやくできるようになる。
・毎回の講義前に前回の講義内容を復習し、解り難かったことを質問で受け付けて回答する。

《授業時間外学習》

ニュース等で子どもに関する事故を視聴した場合、あなたがその場に出くわしたとして、どのような応急処置を行うか、をイメージしておく。また、実習時、園児の病気や怪我の時にどのような対応・応急手当をされていたかを想起して、講義に臨むこと。

《成績評価の方法》

- ・講義（実習）に臨む態度（10%）
- ・学期末テスト（90%）

《備考》

実習（講義）に必要な物品を持参しない場合は、実習（講義）を受けることができないため注意すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	乳幼児の健康観察①	健康な乳幼児の発育・発達・生理機能の想起しながら、保育所・幼稚園での乳幼児の健康観察方法と見落としはならない健康観察を理解する。
2	乳幼児の健康観察②	モデル人形を用いて乳幼児の体温・脈拍・呼吸の測定方法を理解し、実際に学生同士で測定できるように記録を行うことができる。
3	主な乳幼児の症状とその対応	発達段階に応じた発熱・嘔吐・下痢・便秘・脱水を理解しその対応ができるようになり、必要に応じて薬法の当て方や与薬の方法がわかる。
4	乳幼児の養護	発達段階に応じた抱っこのしかた・衣服の着脱・おむつの当て方をモデル人形を使用して実際に行うことができ、注意点がわかる。
5	清潔の指導① — 手洗いを通して —	発達段階に応じたの手洗いの目標と手洗い方法についてわかる。
6	清潔の指導② — 手洗いを通して —	細菌やウイルスを取り除く手洗い方法ができ、園児に指導することができる。
7	清潔の指導 — むし歯予防 —	発達段階に応じたのむし歯になりやすい箇所がわかり、その予防ができ園児に指導することができる。
8	保健活動と保健計画	これまでの演習が活かせるように園での保健活動と保健計画立案について理解できる。
9	子どもを取り巻く事故とその予防①	園で発生した事故を紹介し事故が起こる原因となった問題点をグループで考え、保育士・幼稚園教諭には危機管理のしかたがわかっていることがわかる。
10	子どもを取り巻く事故とその予防②	事故の種類を考えて、幼児が転倒事故を起こしやすいのはなぜか？を理解するためにチャイルドビジョンを装着して体験し「なぜか？」の理由がわかる。
11	応急手当	『幼稚園・保育所での応急手当』のビデオを視聴し、現場での応急手当のしかたがわかり、包帯の巻き方を実際に行う。
12	応急手当を実際に行う	『幼稚園・保育所での応急手当』のビデオに載っていない、応急手当の頭部外傷・骨折の症状と病院に搬送するまでの応急手当がわかる。
13	救急蘇生法	『幼稚園・保育所での心肺蘇生法』のビデオを視聴しながら、現場での発達段階に応じた心肺蘇生法のしかたがわかる。
14	救急蘇生法を実際に行う。	心肺蘇生法用のモデル人形を用いて、子どもの命を助けることができるように、発達段階に応じた心肺蘇生法ができるようになる。
15	まとめ	1回目～14回目までの学習内容がどこまで理解できているかを確認する。

《学科教育科目》

科目名	家庭支援論	科目ナンバリング	C3032S-●018
担当者氏名	山村 けい子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 		

《授業の概要》

近年、核家族化等の影響により、地域社会のコミュニティや家庭の形態も多様化してきた。子どもと家庭を取り巻く環境の変化の中で、育児と就労の両立の困難、子育ての孤立化、虐待の問題、貧困等、子どもの育ちの変容や家庭の子育て力の低下が言われてくるようになった。また、地域の中で近隣の人間関係が希薄化し、地域の子育ての力も低下が著しい。これらの背景を踏まえて、保育者の役割、家庭支援の在り方を理解する。

《授業の到達目標》

現代の家族・家庭の変容について知り、さまざまな人間関係について理解を深め、主体的に考えるようになる。
 児童福祉法、保育所保育指針、幼稚園教育要領に示されている家庭支援の原理を理解をする。
 実際の保育現場ではどのような支援をしているかを実践例を通して学習をし、保育現場で起こりうる諸問題に対して見通しを持つ力を習得する。

《成績評価の方法》

試験（70%）、レポート課題の提出（20%）授業への参加態度（10%）レポートにコメントを付して返却をする。

《テキスト》

児童育成協会監修 新保幸男、小林理編集（2016）『家庭支援論』中央法規

《参考図書》

柏女霊峰著（2003）『子育て支援と保育者の役割』フレーベル館
 柏女霊峰著（2015）『子ども家庭福祉論』誠信書房
 加藤邦子、牧野勝子他編著（2016）『子どもと地域と社会をつなぐ家庭支援論』福村出版
 適宜プリントを配布する。

《授業時間外学習》

事前学習として教科書の指定箇所を目を通しておく。
 「家庭支援」について実習で経験したことを踏まえてレポート等にまとめる。
 実習等で経験したことから保育者の役割を考え、「家庭支援論」の授業に臨む。

《備考》

単に授業に出席をするだけでなく、積極的な授業参加を求める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	家庭の意義と機能	家庭とは、家族や親族だけでなく、より広く個人の支えとなる関係性として環境をとらえる概念である。家族以外のネットワークを支援者という環境として家庭をとらえる。
2	家庭支援の必要性	生活課題を乗り越えて行くために資源の多さや多様さだけでなく、活用の在り方の重要性について理解をする。
3	保育士等が行う家庭支援の原理	児童福祉法、保育所保育指針、幼稚園教育要綱に示されている家庭支援の原理を学ぶ。保育士等が関わる子どもと家庭について理解をし、方法を学び、深める。
4	家庭生活を取り巻く社会的状況の変化	家庭という子どもにとって大切な場が、社会的状況（少子高齢化、低成長経済等）によって大きく揺らいでいる。子育て家庭の貧困について知り、家庭支援を深める。
5	地域社会の変容と家庭支援	地域社会をめぐる動向と地域で生じている多様な福祉課題を知り、対応する新たな制度・施策を学ぶとともに保育者として必要な視点と実践について理解を深める。
6	現代の家庭における人間関係	現代の家族・家庭の変容について、また、家庭における様々な人間関係について学び、家庭支援の際にどのような配慮が必要であるか説明できる。
7	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	児童家庭福祉施策の全体像と、それを形成している児童家庭福祉の法制度や近年の動向、社会資源とその担い手や役割について理解をする。
8	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	児童家庭福祉の施策体制や国家計画の推進と子ども・子育て支援新制度までの経緯と新制度の枠組みと実施体制を理解をする。
9	多様な子育て支援サービスの概要	現在の子育て支援サービスは、すべての子育て家庭を対象としている。その対応も多岐にわたっているので多様な子育て支援サービスとその概要について理解をする。
10	保育所入所児童の家庭支援	保育所入所児童の家庭への支援について、保育所の役割と保育所の入所理由、「保育所保育指針」における家庭支援の視点から理解する。
11	地域の子育て家庭への支援	地域の子育て家庭への支援の意味や役割、支援機能、特性を法制度に規定されている内容から把握し、その枠組みに沿って支援者の役割を理解し、あり方について理解する。
12	子育て支援における関係機関との連携	子育て支援において関係機関との連携した環境の働きがけの重要性を知る。連携の意味を知り、保育士として連携を有意的に行うための知識と技術の習得の必要性を理解する。
13	子育て支援サービスの課題	子どもの「いのち」尊さを根底に子育てにふさわしい環境を創り、子育ての家庭を見守り、問題発生の予防や早期発見に努める支援の多様な展開を説明できる。
14	相談事例の検討 学習の振り返り	事例をソーシャルワークの方法を参考にし検討をしていく。家庭支援を「学ぶ」意義について振り返り、レポートを書き、保育士という専門職の学習内容を説明できる。
15	学習のまとめ	振り返りをして、自己評価と理解度を確認する。これまでの学習内容と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明する。

《学科教育科目》

科目名	社会福祉	科目ナンバリング	C3031SG G019
担当者氏名	黒澤 祐介		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

社会福祉とは、広く人びとの幸せな社会生活を支援する考え方や具体的な方法、およびそれらを実現するさまざまな施策の総称である。本科目では、社会福祉の歴史や理念、法制度を学ぶことにより、社会福祉の実現にむけた担い手としての理解を深めることを目的とする。また、実践で求められる諸領域（児童福祉・障害者福祉・高齢者福祉など）の基礎的知識など、保育士に必要な力を養うことを目指す。

《テキスト》

特に指定しない。各回の講義でレジュメを配布する。

《参考図書》

片山義弘・李木明德編著（2014）『新保育ライブラリ 社会福祉』北大路書房

《授業の到達目標》

- (1) 社会福祉の歴史や理念、法制度を理解する。
 - (2) 社会福祉の担い手としての知識や技術を体得する。
 - (3) 保育士に必要な諸領域の基礎的知識を身につける。
- 以上のことを通して、社会福祉にかかわる保育専門職としての価値・知識・技術を習得する。

《授業時間外学習》

具体的に指定はしないが、講義の内容をふまえて、普段から身近な福祉問題に関心を持ち、福祉の視点を育むようにすること。

《成績評価の方法》

平常点（10%）、小課題（レポートなど）（30%）、筆記試験（60%）により評価する。
 なお、レポートや筆記試験に関しては、実施後に評価ポイントの説明や解説を行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション（社会福祉の価値）	専門職として社会福祉にかかわるという将来像を見据え、多様な価値や視点がある社会福祉を学ぶ意義について理解する。
2	社会福祉の概念と理念	広く人びとの幸福を追求する社会福祉の理念や概念を理解するとともに、それを保障するための制度や支援の仕組みについて学習する。
3	社会福祉の歴史の変遷 ①：社会福祉の歴史	社会福祉が制度として確立されてきた諸外国の歴史と、その根底にある理念や特徴を学び、それが現代の社会福祉制度にどう反映されているのかを理解する。
4	社会福祉の歴史の変遷 ②：日本の社会福祉の歴史	日本における社会福祉の歴史とその社会的背景を学ぶことから、日本固有の社会福祉の特徴や価値を理解する。
5	社会福祉の支援と方法 ①：制度としての社会福祉	マクロな制度としての社会福祉の諸制度・施策やサービスについての基礎的知識を習得するとともに、社会福祉における制度と実践の相補性について理解する。
6	社会福祉の支援と方法 ②：相談援助の技術と方法	ミクロな実践としての社会福祉の支援方法や技術についての基礎的知識を習得するとともに、その根底にある価値や理論について理解する。
7	社会福祉の支援と方法 ③：権利擁護	個人の権利や意思を尊重する権利擁護の諸制度や支援体系に触れながら、社会福祉における利用者保護の仕組みについて学習する。
8	社会保障	社会保障制度の全体像を掴むとともに、とくに医療保障制度、所得保障制度についての知識を習得する。
9	社会福祉の機関と専門職の役割	社会福祉にかかわるさまざまな機関や専門職の役割を理解するとともに、その具体的な実施体系やサービス提供体制について学ぶ。
10	子ども家庭福祉	子ども家庭福祉に関する歴史や法制度（児童福祉六法など）を学習するとともに、子どもやその家族のかかえる問題を理解する。
11	高齢者福祉	高齢者福祉に関する歴史や法制度（介護保険制度など）を学習するとともに、高齢者に特徴的な問題を理解する。
12	障害者福祉	障害者福祉に関する歴史や法制度（障害者総合支援法など）を学習するとともに、障害者のかかえる問題を理解する。
13	生活困窮者福祉	生活困窮者福祉に関する歴史や法制度（生活保護制度、生活困窮者自立支援制度など）を学習するとともに、生活困窮者に特徴的な問題を理解する。
14	地域福祉	地域社会の福祉課題に対して、公私の社会福祉関係者と協力して解決を目指す地域福祉の考え方を学ぶとともに、その実現にむけた法制度や方法を理解する。
15	学習のまとめ	社会福祉を「学ぶ」意義について振り返り、学習内容が今後の専門職実践のなかでどのように反映されるのかを考察する。

《学科教育科目》

科目名	相談援助	科目ナンバリング	C3032S-●020
担当者氏名	山東 綾乃		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 		

《授業の概要》

相談援助とは、さまざまな福祉課題を抱える人や子どもに対して、相談や制度・サービスの調整をとおして課題解決を図る具体的な方法や技術のことである。本科目では、保育における事例検討やロールプレイなどを通して、相談援助の歴史や理論、方法、技術を学習することで、保育士に必要な相談援助の力を養うことを目指す。

《テキスト》

特に指定しない。各回の講義でレジュメを配布する。

《参考図書》

片山義弘・李木明德編著（2014）『新保育ライブラリ 相談援助』北大路書房

《授業の到達目標》

- (1) 相談援助の歴史や理論、方法を理解する。
 - (2) 相談援助者としての知識や技術を体得する。
 - (3) 保育場面で求められる相談援助の実践力を身につける。
- 以上のことを通して、保育実践における相談援助の価値・知識・技術を習得する。

《授業時間外学習》

授業で指示する課題をこなして授業に参加すること。また、講義の内容をふまえて、普段から子ども・家庭の抱える問題に関心を持ち、そこに存在する福祉課題が何かを考えてみるようにすること。

《成績評価の方法》

平常点（10%）、小課題（レポートなど）（30%）、筆記試験（60%）により評価する。
 なお、レポートや筆記試験に関しては、実施後に評価ポイントの説明や解説を行う。

《備考》

体験・参加型の講義が中心となるので、積極的な態度で受講することを期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション（相談援助の概要）	社会福祉の視点からみる今日的課題を概観し、保育専門職に求められる相談援助とは何かを理解する。
2	相談援助の価値と倫理	相談援助を行う上で基盤となる価値や倫理について、社会福祉士の倫理綱領や行動規範などから理解する。
3	保育と相談援助	保育所や児童福祉施設における今日的な課題をふまえて、保育相談援助の基本的な理念や意義を学ぶ。
4	相談援助の理論と実践 ①：相談援助の実践モデル	相談援助の多様な実践モデルについて、それぞれの視点や特徴を理解するとともに、問題状況や課題に応じた活用方法について学習する。
5	相談援助の理論と実践 ②：相談援助の展開過程	相談援助の展開過程について、各局面（エンゲージメント、アセスメント、プランニング、インターベンション、モニタリング、評価・終結）の目的や機能を理解する。
6	相談援助の方法①：相談援助のアプローチ	相談援助の多様なアプローチについて、それぞれの目的や対象、方法を理解するとともに、問題状況やニーズに応じて適切に活用する実践力を身につける。
7	相談援助の方法②：社会資源の調整・開発	問題解決やニーズの実現にむけて、相談援助者に求められる社会資源の調整（コーディネート）方法や、開発（ソーシャルアクション）方法について学習する。
8	相談援助の方法③：多機関・職種との連携・協働	相談援助にかかわる機関・職種の役割や業務を理解するとともに、支援や援助に必要な機関・職種との連携・協働方法を学習する。
9	相談援助の技術と技法 ①：自己覚知と他者理解	相談援助者としての自己覚知の重要性を理解するとともに、自己覚知を深めるためのスーパービジョンについても学習する。
10	相談援助の技術と技法 ②：面接技法	相談援助における面接技法とコミュニケーションについて、ロールプレイを行いながら体験的に習得する。
11	相談援助の技術と技法 ③：グループワークの方法	相談援助や保育実践において活用できるグループワークの原則、またグループ活動を効果的に行うための方法や技術について学習する。
12	相談援助の技術と技法 ④：記録技法	相談援助を進めていくために必要となる記録技法や記録の種類、書き方を習得する。
13	事例研究①：家庭支援における相談援助	保育所や児童養護施設などにおける相談援助の事例をもちいて、家庭支援における相談援助を理解する。
14	事例研究②：発達支援における相談援助	児童発達支援センターや障害児施設などにおける相談援助の事例を用いて、発達支援における相談援助を理解する。
15	学習のまとめ	相談援助の方法や技術を振り返り、学習内容を保育専門職としての実践でどのように活用できるかを考察する。

《学科教育科目》

科目名	教育原理	科目ナンバリング	C3031SG G022
担当者氏名	三浦 摩美		
授業方法	講義	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 		

《授業の概要》

現代社会が急速に変化するなかでどのような教育が求められるのか、或いは、人間社会において不変的で本質的な教育課題はあるのか、あるとするならそれはどのようなものであるのか、このような事柄を念頭に置いて、教育にかかわる諸問題を多様な側面から考察する。特に、人間の成長や発達にとって必要で不可欠な「教育」の機能や役割、意義について、教育の社会的、歴史的、人間学的観点から理解できるようにしたい。

《テキスト》

『新保育士養成講座第2巻 教育原理』新保育士養成講座編纂委員会/編、改訂第2版、2015。

《参考図書》

必要に応じて紹介する。
プリント資料を配布する。

《授業の到達目標》

教育問題に関わる現代社会の構造的な変化と課題、とりわけ幼児教育や保育分野にある今日的な課題への理解を通して、教育や保育自体がもつ機能について洞察できるようにする。そのためにも、現在の教育的な課題の把握と考察、教育の歴史と理念、教育方法論と学習形態論について学ぶことで、教育の必要性と役割、そしてその意味や意義を理解できるようにする。総じて、人間にとっての教育の意味の把握に努める。

《授業時間外学習》

教科書、ノート、プリント資料をよく読み、平常のレポートや学期末の試験に臨む。
配布された資料や自分で収集した資料を用いて、レポート課題に対応できるようにする。

《成績評価の方法》

平常のレポート課題（30%）、および学期末の試験（70%）で評価する。試験内容や評価基準等について講評を行う。

《備考》

授業中のスマートフォンや携帯電話の使用、私語を厳禁とする。レポートは、必ず、ホッチキス止めをして提出する。出席要件に注意して受講する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的な課題と教育の問題	幼児教育や保育をめぐる昨今の社会的な動向と課題について学び、成長・発達の初期段階にある人間のおかれた社会的な環境とそこにみられる課題について知る。
2	教育の定義	「教育」と「形成」、「教育」と「保育」の機能について理解する。 「教育」と「保育」の語が用いられてきた歴史的経緯について知る。
3	保育の環境や方法における教育の視点	人間にとっての「環境」の意味や環境を通じた教育の意義について学ぶ。また、保育の計画性と教育課程の関連性への理解を通して、意図的教育の意味について考察する。
4	教育の意義と目的	「教育」の文字に込められている教育の意義と役割について学び、歴史にみられる教育の目的について知る。
5	幼児教育および保育の目的・目標・ねらい	幼稚園教育要領や保育指針、その他の教育法規に定められた教育の目的や目標を通して現在の教育や保育に求められている事柄について学ぶ。
6	教育における社会化の問題	人間にとっての文化の意味と役割について学び、社会化の過程と学習の関係について理解する。
7	社会化に関わる諸問題	社会化とアイデンティティの形成、子どもの主体性の形成と教育の関係について考察する。
8	教育の基礎的概念と諸理論(1)	西欧における近代教育の樹立について学ぶ。とくに体系的教育学と子どもの発見について理解する。
9	教育の基礎的概念と諸理論(2)	作業教育の歴史と幼稚園の創設について学ぶ。
10	教育の基礎的概念と諸理論(3)	経験主義的教育理論および感覚訓練による教育法の開発について学ぶ。
11	日本の教育思想と子ども観(1)	江戸時代の教育施設と教育思想について学ぶ。
12	日本の教育思想と子ども観(2)	明治初期の教育理論について学ぶ。
13	日本の教育思想と子ども観(3)	大正期・昭和初期の教育理論について学ぶ。
14	現代教育の課題と人間教育の意義	現代社会のなかの教育問題と不変的な人間教育の意義について、改めて考察する。
15	まとめ	筆記試験を行い、学習内容の理解と考察を深める。

《学科教育科目》

科目名	保育原理B	科目ナンバリング	C3032S-〇024
担当者氏名	三浦 摩美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 		

《授業の概要》

養護と教育の一体性とその意義について考察し、具体的な保育活動のなかでどのようにそれらが展開されるのか、さらに、保育活動と環境、生活と遊びの活動を5つの領域から理解し、そこでの保育者の援助と専門性の向上に向けた取り組みのあり方について教科書やその他の資料、視聴覚教材を通して概説する。

《テキスト》

乙訓稔監修『保育原理－保育士と幼稚園教諭を志す人に－』東信堂2014年初版第1刷

《参考図書》

そのつど紹介する。
適時資料を配布する。

《授業の到達目標》

保育の意義について理解するとともに、保育の領域と子どもの活動である生活と遊びの総合的な活動全体を見通すことができるようにする。また、幼稚園教育要領や保育所保育指針に示された保育の目的や目標、ねらいと内容について改めて理解し、それらと保育活動の関連について考察できるようにしたい。

《授業時間外学習》

教科書やノート、配付資料をよく読み、授業内容の理解が定着するように努める。また、授業内容で紹介された参考図書や資料を読み、理解を広げることができるように努める。

《成績評価の方法》

平常の提出物（30%）および学期末のレポート（70%）により総合的に評価する。レポート課題の内容や評価基準等について講評を行う。

《備考》

授業中の私語や携帯電話・メール等の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育の意義	保育と教育の概念と社会的意義について理解する。
2	保育所保育と幼稚園教育の基本	養護と教育の一体性、環境の意味と機能について理解する。
3	環境を通して行う保育について	保育活動の事例を通して、人と自然、環境と保育活動のあり方について考察する。 領域「環境」に関する課題
4	表現活動としての保育活動について 1.	幼児期の社会的スキルの育成と表現活動について考察する。 領域「言葉」「人間関係」に関する課題
5	表現活動としての保育活動について 2.	幼児期の育ちにおける造形表現、身体表現、音楽表現の意義について考察する。 領域「表現」に関する課題
6	生活と遊びの活動としての保育活動 1.	乳幼児期にふさわしい生活と生活体験の展開について理解する。 領域「健康」に関する課題、生きる力を培う保育カリキュラム
7	生活と遊びの活動としての保育活動 2.	保育者の援助－生活、運動、安全に対する配慮について考察する。 集団における生活習慣の定着
8	生活と遊びの活動としての保育活動 3.	遊びの本質と意義、幼児期にふさわしい遊びの体験について考察する。 好きな遊びやクラスで取り組む活動
9	特長的な保育実践の理論と展開 1.	フレーベルの幼児教育論について学ぶ。
10	特長的な保育実践の理論と展開 2.	フレーベル幼稚園の保育活動
11	特長的な保育実践の理論と展開 3.	モンテッソーリの幼児教育論について学ぶ。
12	特長的な保育実践の理論と展開 4.	モンテッソーリ「子どもの家」の保育活動
13	特長的な保育実践の理論と展開 5.	シュタイナーの幼児教育論について学ぶ。
14	特長的な保育実践の理論と展開 6.	シュタイナー幼稚園の保育活動
15	まとめ	学習のまとめ

《学科教育科目》

科目名	保育相談支援	科目ナンバリング	C3032S-●026
担当者氏名	高見 スマ子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 		

《授業の概要》

本授業では「保育指導」業務を支える原理並びに専門技術を学び、実際の活用方法を学習する。保育相談支援の意義と基本、援助技術、展開過程、評価、実施体制等を学び、保育所等児童福祉施設において実践できるようにする。

《テキスト》

別途指示

《参考図書》

授業中に適宜紹介する

《授業の到達目標》

- 保育相談支援の意義と原則、保育相談支援の基本を理解し、主体的に考え、実践できる。
- 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解し、保育所投の児童福祉施設において保護者支援ができる。

《授業時間外学習》

授業前に、前回の授業内容の復習をすること。
社会の動きに敏感になるために新聞を読むこと。

《成績評価の方法》

授業中に課すレポート及び小テスト（20％） 筆記試験（80％）

《備考》

配布した資料をよく読むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育相談支援の意義と基本的視点-1	保育相談支援とは何か、保育士の業務と相談支援
2	保育相談支援の意義と基本的視点-2	保育相談支援の原理、保育相談支援の構造・展開と相談援助との関係
3	保育相談支援の基本-1	保育相談支援の価値と倫理、信頼関係を築く受容と自己決定の尊重
4	保育相談支援の基本-2	子どもの最善の利益の重視、保護者とともに子どもの成長を喜び合う、保護者の養育力の向上に資する支援、他の社会資源との連携・協力
5	保育相談支援の展開-1	保育を基盤とした保育相談支援、保育相談支援の方法と技術
6	保育相談支援の展開-2	保育相談支援の展開過程、保育相談支援の実施体制
7	環境を通じた保育相談支援-1	環境を通じた保育と保育相談支援、保護者との信頼関係を形成する環境、保護者の日常生活を支える環境
8	環境を通じた保育相談支援-2	保護者の子ども理解を促す環境、家庭の暮らしを支える環境、子どもが育つ環境モデルとしての保育所
9	保育所利用児童の保護者へば保育相談支援-1	保育相談支援の実施事例と解説、保育相談支援の場面
10	保育所利用児童の保護者へば保育相談支援-2	保育相談支援の手段、保育相談支援の評価、特別な対応を必要とする家庭に対する保育相談支援
11	地域子育て支援における保育相談支援-1	保育所における地域子育て支援における保育相談支援、保育相談支援の実践場面
12	地域子育て支援における保育相談支援-2	保育所における保育相談支援の手段、保育相談支援の評価
13	児童福祉施設における保育相談支援-1	保育相談支援の特性、保育相談支援の実践内容
14	児童福祉施設における保育相談支援-2	保育相談支援の実践事例と解説、保育相談支援の評価
15	まとめ	演習課題に取り組み、学習内容の成果を確認する

《学科教育科目》

科目名	教育実習	科目ナンバリング	C3011S◆-027
担当者氏名	小林 孝子、青木 好代		
授業方法	実習	単位・必選	5・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 		

《授業の概要》

参加指導実習の目的、意義を理解する。課題を持って、参加指導実習をする。幼稚園教育の目的、意義をよく理解する。年齢別に子どもの成長発達を理解する。子どもの遊びを研究し、子どもが楽しむ保育を考える。保育に参加するという目的を持ち意欲を持って臨む。知識、技能を活かし、参加指導実習で保育力を身につける。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』『実習の手びき』授業で配付する必要に応じてプリントを配付する。

《参考図書》

適宜、授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

子どもを見る視点、教師の動きから意図すること、思いなどを読み取り実習記録が書ける。環境構成、子どもの活動、教師の援助等を適切なことばで書く。子どもへのかかわり方など保育技術を学び、保育者としての資質を身につける。子どもの前で保育する力を身につける。指導計画を作成し、部分保育、研究保育をし、課題を知り、実践する力をつける。遊びのレパートリーを多く持ち、楽しい保育ができることを目指す。

《授業時間外学習》

絵本の読み聞かせ、手遊び、リズム遊び、ピアノで歌唱指導など授業で学んだことを力にして実践に活かす。図書館などで、数多く絵本に接し子どもの前で読む絵本を選ぶ。保育雑誌で実際に役立つ5領域の遊びや教材を研究する。動くおもちゃ、折り紙、子どもが楽しむものを制作し実習に役立てるように準備をする。常にハサミ、のり、セロテープ等準備し持参。

《成績評価の方法》

授業中に課する提出物 20% (指導計画等含)
 授業中の発表内容、態度 10%
 実習園の評価・実習ノート 70%
 ・オフィスアワー等で質問を受け付け、必要に応じて個別の指導を行う。また、授業の到達目標に対して全体の講評を行う。

《備考》

教育実習を受ける資格条件を理解し、遵守する。積極的に発表をし、意欲を持って授業に取り組む。遅刻早退はしない。授業の妨害、私語、携帯電話の使用、飲食は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育実習・参加指導実習の目的・意義	幼稚園教諭の免許取得に必要な実習であることを理解し、保育者としての資質について考え、今までの授業で得られた知識、技能を発揮し、参加指導実習に臨む。
2	実習録の書き方	子どもを見る視点、教師のかかわりを見る視点から、観察記録を取る。なぜ保育するか意味も考える。子どもの育ちを援助する方法を学び、教師の意図、思いを理解する。
3	指導計画作成・模擬保育と相互学習	環境構成、子どもの活動、教師の援助など記入方法を取得しながら、保育に参加した時の自分の考え、思いも文章で表すことができる。
4	指導計画作成・模擬保育と相互学習	実習生としての課題や、問題など、保育に参加して、記録する方法を知り指導計画作成へとつなげる。
5	指導計画作成・模擬保育と相互学習	部分保育、研究保育の内容を考え、決定し指導計画を作成する。実際、模擬保育をし、お互いに検討し、意見を述べ、保育内容の充実を図る。
6	指導計画作成・模擬保育と相互学習	部分保育、研究保育の内容を考え、決定し指導計画を作成する。実際、模擬保育をし、お互いに検討し、意見を述べ、保育内容の充実を図る。
7	指導計画作成・模擬保育と相互学習	部分保育、研究保育の内容を考え、決定し指導計画を作成する。実際、模擬保育をし、お互いに検討し、意見を述べ、保育内容の充実を図る。
8	指導計画作成・模擬保育と相互学習	部分保育、研究保育の内容を考え、決定し指導計画を作成する。実際、模擬保育をし、お互いに検討し、意見を述べ、保育内容の充実を図る。
9	参加指導実習直前指導	実習の心得、礼儀、マナー、言葉遣い等、諸注意事項を確認する。DVD視聴する。指導計画書の見直しをし、準備物等の確認をする。
10	参加指導実習の反省と課題・実習園へのお礼	参加指導実習を終えて、反省と課題を発表する実習園へのお礼状を書く。
11	参加指導実習の反省と課題発表・自己評価	参加指導実習を終えて、これから保育者としての課題をグループ討議をし発表する。自己評価をする。
12	課題研究・実践内容発表	子どもが喜ぶ遊びを考え、その方法や環境構成に繋げる保育内容をテーマとして、実践発表をする。課題の検討をする。
13	課題研究・実践内容発表	子どもが喜ぶ遊びを考え、その方法や環境構成に繋げる保育内容をテーマとして、実践発表をする。課題の検討をする。
14	課題研究・実践内容発表	子どもが喜ぶ遊びを考え、その方法や環境構成に繋げる保育内容をテーマとして、実践発表をする。課題の検討をする。
15	評価とまとめ	実践内容発表の評価をする。授業のまとめをし、学んだことを説明する。

《学科教育科目》

科目名	保育実習Ⅱ《保育所実習》	科目ナンバリング	C3031S-〇030
担当者氏名	山村 けい子、古門 貞美		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・通年（Ⅰ期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

保育所の生活に積極的に参加をし、子どもへの理解を深めると共に、それぞれの施設の機能や保育士の職務内容についてもより一層の理解を深める。

《テキスト》

百瀬ユカリ著『よくわかる保育所実習』創成社

《参考図書》

厚生労働省 『保育所保育指針解説書』

《授業の到達目標》

- ① 保育所の役割や機能について理解を深める。
- ② 計画に基づく指導実習等を通して子どもの理解を深める。
- ③ 実施した保育や実習記録から考察や自己評価を的確に行う。
- ④ 子どもの実態に即した指導計画を立案する。

《授業時間外学習》

積極的に保育現場を訪問し、子どもとの出会いを経験する。保育に関する本、絵本等を参考にし、遊びのレパートリーを増やし、教材研究をしておく。子どもの発達に関する本を参考にし、子どもの心身の理解を深めておく。体調を管理し、実習に臨む気持ちを高める。実習ノートは、丁寧に書く。

《成績評価の方法》

- ① 実習園の評価、保育実習指導Ⅱの受講状況（60%）
 - ② 実習ノート（40%）
- ただし、保育実習Ⅱは保育所2週間を終了しないと単位認定はされない。個人面談を行って自分の実習をふりかえる。
 ・実習ノートから各学生の成果と課題を明確にする。

《備考》

実習中は、アルバイト禁止。健康管理に気をつける。やむを得ず欠席する場合は、実習園、大学に連絡をする。保育内容については実習園に従うようにする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育所（園）参加指導実習	原則1日8時間×10日間 80時間以上 詳細は実習要項参照
2	保育所（園）参加指導実習	詳細は実習要項参照
3	保育所（園）参加指導実習	詳細は実習要項参照
4	保育所（園）参加指導実習	詳細は実習要項参照
5	保育所（園）参加指導実習	詳細は実習要項参照
6	保育所（園）参加指導実習	詳細は実習要項参照
7	保育所（園）参加指導実習	詳細は実習要項参照
8	保育所（園）参加指導実習	詳細は実習要項参照
9	保育所（園）参加指導実習	詳細は実習要項参照
10	保育所（園）参加指導実習	詳細は実習要項参照
11	保育所（園）参加指導実習	詳細は実習要項参照
12	保育所（園）参加指導実習	詳細は実習要項参照
13	保育所（園）参加指導実習	詳細は実習要項参照
14	保育所（園）参加指導実習	詳細は実習要項参照
15	保育所（園）参加指導実習	詳細は実習要項参照

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導Ⅱ《保育所実習》		科目ナンバリング	C3031S-0031
担当者氏名	山村 けい子、古門 貞美			
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期
				3年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 			

《授業の概要》

保育実習Ⅱ（保育所参加指導実習 8・9月 2週間）に必要な手続きについて指導するほか、実習の意義・目的、具体的な内容・方法・心構え、実習後の自己評価やそれに基づく新たな課題の発見などについて、保育実習Ⅱのための事前・事後指導を行う。

《テキスト》

百瀬ユカリ著 『よくわかる保育所実習（第三版）』創成社

《参考図書》

厚生労働省編 『保育所保育指針解説書』フレーベル館

《授業の到達目標》

事前指導、保育所実習の意義・目的・内容・方法等を理解する。守秘義務や人権の尊重等実習中の留意事や心構え、自らの実習課題について理解する。事後指導実習を総括、自己評価し、新たな学習課題を発見するとともに、保育実習Ⅱに備える。

《授業時間外学習》

日頃から子ども達の言動に興味がいくように心がける。「自分お得意ワザ」を見つけておく。図書館の絵コーナーやおもちゃ屋さん、ホームセンター等に出かけ、実習で使えるものを発見しておく。

《成績評価の方法》

この授業は、事前指導（60%）、事後指導（40%）の比率で、受講態度（40%）や提出物（30%）、書類の作成状況等（30%）に基づき評価する。提出物は期限を守る。なお、最終的な成績は、施設実習に関する保育実習指導Ⅱの評価を加え評価する。レポート等にはコメントを付けて、返却する。

《備考》

欠席・遅刻・早退の場合は、必ず実習事務室へ連絡をすること。講義時は保育所での実習と考え出席する（服装・態度）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育実習とは	1年次の時の保育実習指導Ⅰを振り返り、保育実習について再認識する。
2	保育所の概要と実習の様子	保育所の概要と実習の様子を視聴覚教材で見聞し、改めて、保育所について学びを深める。
3	実習先の確認	自分の実習先について再確認し、オリエンテーションの準備をする。
4	保育所の施設、設備、機能の概要	保育所の職務内容・職業倫理についての学びを深め、参加指導実習に備える。
5	保育士の職務内容等	保育士の職務内容・職業倫理について学びを深め、参加指導実習に備える。
6	乳幼児の姿	乳幼児の姿について、視聴覚教材を通して、一層理解を深める。
7	実習中の留意事項	実習中の留意事項（守秘義務・人権の尊重等）について理解を深め、子どもへの援助方法等を探る。
8	実習課題の作成 実習記録について	実習課題の作成、実習記録についての学び、目的意識を鮮明に持つ。
9	指導案について①	指導案を書く意義について、再度学びを深める。
10	指導案について②	グループで遊びを設定し、指導案を作成する。
11	指導案について③	グループで作成した指導案に基づき、模擬保育の準備をする。
12	模擬保育①	グループごとに模擬保育をし、意見交流を図る。
13	模擬保育②	グループごとに模擬保育をし、意見交流を図る。
14	部分実習 全日実習	部分実習、全日実習について確認する。細菌検査等重要なことは提出期日を厳守する。
15	直前指導	実習中の心構え、諸注意、配布物の確認。実習終了後の日程について確認する。

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導Ⅱ《保育所実習》		科目ナンバリング	C3031S-0031
担当者氏名	山村 けい子、古門 貞美			
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期 3年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 		

《授業の概要》

保育実習Ⅱ（保育所参加指導実習8・9月2週間）に必要な手続きについて指導するほか、実習の意義・目的、具体的な内容・方法・心構え、実習後の自己評価やそれに基づく課題の発見などについて、保育実習Ⅱのための事前・事後指導を行う。

《テキスト》

百瀬ユカリ著『よくわかる保育所実習（第三版）』創成社

《参考図書》

厚生労働省編『保育所保育指針解説書』
プリント資料を配布する。
授業中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

事前指導、保育所実習の意義・目的・内容・方法等を理解する。守秘義務や人権の尊重等実習中の留意事や心構え、自らの実習課題について理解する。事後指導実習を総括、自己評価し、新たな学習課題を発見するとともに、保育実習Ⅱに備える。

《授業時間外学習》

日頃から子ども達の言動に興味がいくよう心がける。
「自分の得意ワザ」を見つけておくこと。図書館の絵本コーナーやおもちゃ屋さん、ホームセンター等に出かけ、実習で使えるものを発見しておくこと。

《成績評価の方法》

この授業は、事前指導（60%）、事前指導（40%）の比率で、受講態度（40%）や提出物（30%）に基づき評価する。提出物は期限を守ること。なお、最終的な成績は、施設実習に関する保育指導Ⅱの評価を加え評価する。レポート等にはコメントを付けて返却をする。

《備考》

欠席・遅刻・早退の場合は、必ず実習事務室へ連絡すること。
講義時は保育所での実習と考え出席する（服装、態度）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習の振り返り①	実習の振り返り（全体討議・アンケート・自己評価）を行う。
2	実習の振り返り②	実習の振り返り（実習記録）を行い、各自の学びと課題を明確にする。
3	実習の振り返り③	実習の振り返り（実習記録）を行い、各自の学びと課題を明確にする。
4	実習の振り返り④	実習の振り返り（実習記録）を行い、各自の学びと課題を明確にする。
5	乳幼児への配慮・支援	乳幼児への配慮・支援について、適切にできたか学びを深める。
6	遊びのレパトリー①	遊びのレパトリーを増やすために、事前学習を十分にできたか振り返る。
7	遊びのレパトリー②	遊びのレパトリーを増やすために、積極的に事前学習を十分にできたか振り返る。
8	保育所の機能・役割	保育所の機能・役割について理解を深める。
9	保育士の職務内容	保育士の職務内容について十分理解し、自信をもって実習できたか明確にする。
10	実習課題について	実習課題の持ち方（視点）は適切であるか改めて振り返る。
11	実習中の留意事項	実習中の留意事項（守秘義務・人権の尊重等・安全安心な生活）について確かな力をつけることができたか、課題等を明らかにする。
12	乳幼児の姿	乳幼児の姿（発達・成長）についての事前学習を十分にできたか点検する。
13	乳幼児の姿	乳幼児の姿と環境構成について、乳幼児が生活する環境構成を創造する力をつける。
14	保育実習のまとめ	目的意識をしっかりと持ち積極的に臨むことができたか実習のまとめをする。
15	保育実習のまとめ	保育内容の準備、手続き上の不備はないか点検する。

《学科教育科目》

科目名	保育実習Ⅲ《施設実習》	科目ナンバリング	C3031S-〇032
担当者氏名	古川 督、足立 法子		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・通年（Ⅰ期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 		

《授業の概要》

児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能を学ぶ。施設における支援の実際（①受容し、共感する態度②個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子どもの理解③個別支援計画の作成と実践④子どもの家庭への支援と対応⑤多様な専門職との連携⑥地域社会との連携）について学ぶ。保育士の多様な業務と職業倫理を学ぶ。保育士としての自己の課題を明確化する。

《授業の到達目標》

児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。家庭と地域の生活実態に触れて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。保育士としての自己の課題を明確化する。

《成績評価の方法》

施設の評価票に基づく評価（60%）、学習成果の表れである実習ノート（40%）

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次他編、(株)みらい、2013

《参考図書》

『最新保育資料集2013』子どもと保育総合研究所監修、ミネルヴァ書房、2013

《授業時間外学習》

万全の体調で実習に臨めるように、実習10日前から検温し、自己管理する。実習中は慣れない環境と緊張とで著しく体力を損なう可能性が高いので、生活のリズムを整えることに尽力し、実習に集中できるように努める。

《備考》

「保育実習指導Ⅲ」においての諸注意に気を配り、必要に応じて実習事務室等への連絡を行うようにする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	参加（実践）型実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上
2	—	「詳細は実習要項参照」
3	—	—
4	—	—
5	—	—
6	—	—
7	—	—
8	—	—
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導Ⅲ《施設実習》		科目ナンバリング	C3031S-〇033
担当者氏名	古川 督、足立 法子			
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期 3年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

社会福祉系の科目で学習した内容や「保育実習Ⅰ」での実習体験を生かして、福祉施設（通園施設、入所施設）での子どもや障害児への援助内容や方法について理解を深め、家族を含めた家庭支援のための知識や技術、判断力を養う。

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次他編、(株)みらい、2013

《参考図書》

『最新保育資料集2013』子どもと保育総合研究所監修、ミネルヴァ書房、2013 そのほか実習施設に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解ができる。
- 子どもの状態に応じた適切な関わりができる。
- 保育士の専門性を生かした支援ができる。
- 職業倫理を理解し、実践できる。
- 事後指導における実習の総括と評価ができる。

《授業時間外学習》

実習施設の種別に応じた課題を出しますので、図書館、インターネット等を活用して情報収集につとめ、まとめるようにしてください。

《成績評価の方法》

事前指導：実習計画書の作成（50%）
 事後指導：報告書の作成（50%）
 実習計画書及び報告書について内容・改善点などの説明・解説を行う。

《備考》

実習のとりきめに基づいて出席を原則とします。やむを得ず欠席をする場合は、実習事務室に連絡をしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	「保育実習Ⅲ」の位置づけ、「保育実習Ⅲ」の目標と内容
2	実習施設の選定1	対象施設の選定
3	実習施設の選定2	対象施設の選定及び施設における支援の具体的内容
4	事前指導1	事前学習の内容、実習施設の理解
5	事前指導2	保育士と権利保障、実習書類の作成
6	事前指導3	保育とソーシャルワーク
7	事前指導4	保育士と地域社会との関係とかかわり
8	事前指導5	実習計画書の作成
9	事前指導6	実習当日までにやっておくこと
10	事前指導7	実習報告書の書き方・提出の方法について
11	事後指導1	施設保育士と児童福祉施設
12	事後指導2	「保育実習Ⅲ」の評価のまとめ
13	事後指導3	実習報告会の準備
14	事後指導4	実習報告会
15	事後指導5	保育士資格と進路

科目名	保育の心理学Ⅱ	科目ナンバリング	C3031S-●035
担当者氏名	杉田 律子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

保育者は、子どもたちを発達・成長へと導いていかなければならない。子どもたちを発達・成長へと導ける質の高い保育者となるために、子どもたちの心身の発達の流れを正しく理解するとともに、保育者として子どもたちの発達を促すにはどのように関わっていけばよいのかを考える。

《テキスト》

『保育所保育指針解説書』厚生労働省編
 ※他科目で使用しているもので可

《参考図書》

『エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学』 岡本依子ら著 新曜社 2004

《授業の到達目標》

○保育実践に関わる心理学の知識を習得すること。○子どもの発達に関わる心理学の基礎的事項を理解すること。○子どもが人をはじめとする周囲の環境との相互作用を通して成長していく過程を理解すること。○人間の生涯発達の過程と、発達における初期経験の重要性を理解すること。○発達障がいについて正しく理解すること。○発達観さらには子ども観保育観を涵養すること。

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献を読む、保育に関わる新聞報道に注目する、ボランティア活動などして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深める努力をしてください。まずは、自分の生活態度を改めるなど、身近なところから保育者としての実践力を身につける努力をしてください。

《成績評価の方法》

15回目を行う試験の評価70%
 授業中に実施する小テストやレポート課題および授業への取り組みの評価30%
 試験終了後、解説を行い、学習理解を深める

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておくこと。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待しています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの発達の理解	発達とは何かについて改めて学ぶとともに、子どもの発達を正確に捉えるためにはどのような点に留意すべきかを学ぶ。
2	発達の個人差と評価	発達の個人差に関して、個人間差と個人内差について学ぶとともに、観察技法についても学ぶ。また保育における評価の在り方についても考える。
3	遊びの中にみる1歳児	1歳児の遊びの様子を観察し、記録を取り、その分析を行うことで、子どもの発達過程について理解を深める。
4	遊びの中にみる2歳児	2歳児の遊びの様子を観察し、記録を取り、その分析を行うことで、子どもの発達過程について理解を深める。
5	遊びの中にみる3歳児	3歳児の遊びの様子を観察し、記録を取り、その分析を行うことで、子どもの発達過程について理解を深める。
6	遊びの中にみる4歳児	4歳児の遊びの様子を観察し、記録を取り、その分析を行うことで、子どもの発達過程について理解を深める。
7	遊びの中にみる5歳児	5歳児の遊びの様子を観察し、記録を取り、その分析を行うことで、子どもの発達過程について理解を深める。
8	遊びの中にみる6歳児	6歳児の遊びの様子を観察し、記録を取り、その分析を行うことで、子どもの発達過程について理解を深める。
9	集団保育と発達	集団保育を通して子どもが発達する過程について理解を深める
10	仲間との関わりと集団保育の意義	社会性の発達に焦点を当て、仲間との関わりの中で子どもは理解することを学ぶ。集団の構造と機能について学び、集団生活の中での経験の重要性を学ぶ。
11	集団保育の形態と発達	集団保育のさまざまな形態について理解し、子どもの心の発達について理解を深める。
12	TEACCHプログラムによる支援方法	TEACCHプログラムの概要を理解し、構造化などの支援方法について理解を深める。
13	応用行動分析による問題行動の支援方法	応用行動分析(ABA)の概要を理解し、子どもの問題行動への支援方法について理解を深める。
14	就学支援	幼児教育と初等教育との継続性、さらには就業など生涯にわたる支援の継続の重要性について理解する。
15	学習のまとめ	1回目から14回目までの学習内容についての理解度を評価するために試験(60分)を行う。試験の解説(30分)により理解を深める。

《学科教育科目》

科目名	教育心理学	科目ナンバリング	C3031S◆-036
担当者氏名	松田 信樹		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 		

《授業の概要》

人は生まれてからたくさんのことを身につけて発達していく。それを可能にするのが広い意味での教育である。人の人としての発達を支える教育という営みについて、心理学の観点から考える。

《授業の到達目標》

教育心理学の基礎知識を学ぶことにより、教育の対象となる幼児・児童・生徒の発達と学習の過程について理解すること。また、発達障がいをはじめとする障がいを持つ子どもの発達と学習の過程について理解すること。

《成績評価の方法》

筆記試験の評価100%。
質問等は、授業終了後やオフィスアワー等で受け付け、対応する。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回、授業時にプリントを配布する。

《参考図書》

『やさしい教育心理学[第3版]』鎌原雅彦・竹網誠一郎(著) 有斐閣 2012
『絶対役立つ教育心理学 ー実践の理論、理論を実践ー』藤田哲也(編著) ミネルヴァ書房 2007
『よくわかる発達障害 第2版』小野次郎・上野一彦・藤田継道(編) ミネルヴァ書房 2010

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献を読むなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深めてもらいたい。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておこう。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育心理学への導入	教育心理学では何を学ぶのか、そして教育心理学を学ぶ意義について説明する。
2	学習の心理学～その1	学習を定義づけたうえで、学習を成立させるメカニズムについて学ぶ。
3	学習の心理学～その2	子どもを褒める、そして子どもを叱るということについて、学習の心理学の視点から考える。
4	学習への動機づけ～その1	動機づけについて、内発的動機づけをキーワードにして学ぶ。
5	学習への動機づけ～その2	学習意欲を高める、あるいは逆に低下させてしまう諸条件について学び、学習意欲を高める方策を探る。
6	記憶の心理学～その1	忘却とそのメカニズム、短期記憶と長期記憶について簡単な記憶実験を交えながら学ぶ。
7	記憶の心理学～その2	効果的な記憶の仕方と子ども時代の記憶の発達について学ぶ。
8	学習の方法と評価	学習指導の諸形態と学習評価のあり方について学ぶ。
9	学級集団の理解	リーダーシップと集団への同調現象について学ぶ。
10	教師のメンタルヘルス	ストレスとバーンアウトについて学び、教師の精神的健康を守るための方策について考える。
11	発達の基礎の理解	発達の規定因としての遺伝要因と環境要因との相互作用について学ぶ。
12	子ども時代の発達の理解～その1	子ども時代の人間関係の発達について学ぶ。
13	子ども時代の発達の理解～その2	子ども時代の知的能力の発達について学ぶ。
14	障がいをかかえる子どもの発達と学習	発達障がいをはじめとする障がいをもつ子どもたちの発達と学習の過程について学ぶ。
15	学習のまとめ	学習内容の理解度を測定するために筆記試験を行う。

《学科教育科目》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	C3031S◆-040
担当者氏名	笹田 哲男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

教育の「制度」（公教育制度、教育法制など）と「制度的実態」（教育行政、学校経営など）についての体系的な知識を獲得するとともに、昨今の教育改革の動向を検討しながら、現代日本における教育の課題を、みずからの問題として論理的に考えていく力が身につくよう、授業を進める。

《テキスト》

『現代教育の制度と行政』河野和清編著、福村出版、2008

《参考図書》

『図解・表解 教育法規 新訂版』坂田仰、河内祥子、黒川雅子、教育開発研究所、2012

《授業の到達目標》

1. 現代日本の公教育制度、教育法制などについての主要な知識を獲得する。
2. 現代日本の教育がどのように制度的に運用されているかについて、その実態を理解する。
3. 現代日本における教育改革の動向を検討し、今後の課題について考える力を養う。

《授業時間外学習》

授業中、指示する。

《成績評価の方法》

1. 筆記試験の結果で100%評価する。
 2. 筆記試験では、知識の定着度50%、文章作成能力（論理的思考力）50%の配点で、評価する。
- ※分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。
 ※筆記試験実施後、試験問題についての解説を行う。

《備考》

教育改革の動向については、日頃から関心を持つよう心がけてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育制度とは何か	①教育制度、②公教育、公教育の歴史類型、③学校制度、学校制度の類型
2	近代以降の日本教育制度（1）	昭和（戦前）期までの公教育制度、教育行政
3	近代以降の日本教育制度（2）	昭和（戦後）期の公教育制度、教育行政
4	現代日本の教育制度（1）	公教育制度（現状と課題）
5	現代日本の教育制度（2）	教育法制（現状と課題）
6	現代日本の教育制度（3）	教育行政（現状と課題）
7	現代日本の教育制度（4）	学校経営（現状と課題）
8	現代日本の教育制度（5）	保育制度（1）（現状と課題）
9	現代日本の教育制度（6）	保育制度（2）（現状と課題）
10	現代日本の教育制度（7）	教職員人事（現状と課題）
11	現代日本の教育制度（8）	教員養成・研修（現状と課題）
12	現代日本の教育改革（1）	教育改革の動向
13	現代日本の教育改革（2）	教育改革における今後の課題
14	海外主要国の学校制度	アメリカ合衆国、イギリス、フランス、ドイツ等の学校制度
15	まとめ	学修内容の再確認

《学科教育科目》

科目名	乳児保育B	科目ナンバリング	C3032S-●053
担当者氏名	鈴木 富美子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 		

《授業の概要》

- 1、乳児保育Aで学んだ理論・知識を基礎に乳児の発達過程を振り返り確認学習をする。
- 2、保育園（所）、乳児院における保育内容を学び、ベビー人形を用い援助技術の実践を学ぶ。
- 3、乳児への直接的援助と間接援助を学ぶため、様々な保育ニーズの事例検討を行い、幅広い援助技術を学ぶ。

《授業の到達目標》

- ・0～2歳児（3歳中期頃まで）の発達を理解し、適切な援助活動ができるようになる。
- ・事例検討を行い、多様な保育ニーズを知り、幅広い視野を持つことができるようになる。
- ・子どもとおもちゃの関係を理解し、身近な素材を使って発達に応じたおもちゃを作ることができるようになる。

《成績評価の方法》

筆記試験（60%）、課題レポート（20%）、作品・積極性・集中度・調和（20%）
 ※レポート及び作品にはコメントをつけて返却する

《テキスト》

必要に応じ資料配布

《参考図書》

「発達がわかれば子どもが見える」ぎょうせい
 「乳児保育Ⅰ 演習と講義」金子保著 クオリティケア
 「見直そう子育て 立て直そう生活リズム」エイゼル研究所
 「すくすくハンドブック」神戸市保健福祉局
 「乳児の保育新時代」ひとなる書房
 「乳児の生活と保育」ななみ書房

《授業時間外学習》

- ・教科書の指定範囲を読んでおく。
- ・配布資料は必ず読み、理解を深める。
- ・課題レポートについては自分の意見が述べられるよう学習をはかる。
- ・製作物は必ず完成させ、作品の提示を行う。

《備考》

- ・皆が気持ちよく学習できるように受講マナーを守る。
- ・身近なおもちゃを製作するので、予定の日には必要なものを持ってくる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・授業の概要と進め方、履修上の諸注意 ・乳児の概念 ビデオ「赤ちゃんからのメッセージ」
2	乳児保育の概念	・乳児保育の概念とその重要性
3	保育の歴史	・保育所保育と幼稚園教育
4	乳児保育と時代の変化	・時代と共に歩んできた乳児保育について
5	発達の姿と保育援助①	・0歳児の発達過程と特徴（4ヶ月まで） ・0歳児の保育環境
6	発達の姿と特徴①	・ホールディングの意味と方法 ・授乳の仕方、オムツ交換や着衣、応答的關係、離乳
7	発達の姿と保育援助②	・1歳児の発達過程と特徴 ・1歳児の保育環境（赤ちゃんのおもちゃ） 愛着の絆について ビデオ
8	発達の姿と特徴②	・探索活動の理解と援助 自我の芽生えと好奇心 ・感覚的活動から表象的活動へ移行の援助
9	発達の姿と保育援助③	・2歳児（3歳中期頃まで）の発達過程と特徴 ・2歳児の保育環境 自我の芽生えと好奇心
10	保育の計画	・乳児の指導計画
11	家族支援と事例検討	・保護者対応、様々な保育ニーズ・チームワーク
12	発達のつまづきへの対応	・子どもの発達障害へのアプローチやネットワークを考える
13	製作 乳児のおもちゃ①	・手袋シアター「三匹のやぎのガラガラドン」
14	製作 乳児のおもちゃ②	・製作「アンパンマン」
15	授業の振り返りと理解度の確認	・レポートから見る課題

《学科教育科目》

科目名	障害児保育B	科目ナンバリング	C3032S-●055
担当者氏名	杉田 律子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 		

《授業の概要》

本授業の目的は、障害児保育の現状と課題などを踏まえながら障害を理解しようとする心構えと、実践的な技能及び認識を高めることを目指して学習することである。

《テキスト》

※障害児保育Aで使用したテキストを使用

《参考図書》

授業中に適宜案内します。

《授業の到達目標》

本授業では、障害という概念について多角的な理解を行うとともに、行政、地域レベルで行われている障害児の支援の在り方を学習することを通して、いかに行動することが必要であるかを理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

授業中に紹介した文献を読む、障害児に関わる新聞報道に注目するなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深める努力をしてください。
また、保育所見学やボランティア体験を通して、子どもと接する機会を積極的に行ってください。
まずは、自分の言語表現力を高める努力から始めて下さい。

《成績評価の方法》

15回目を行う試験の評価50%
授業中に実施するレポート課題や発表および授業への取り組みの評価50%
試験終了後、解説を行い、学習理解を深める

《備考》

8～13講のグループ研究はアクティブ・ラーニング・ゾーンの使用を予定している。発表を目指し、授業内での議論、自宅学習などに能動的に取り組むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、履修上の諸注意
2	障害の概念①障害とは何か	障害とは何か、について理解を深める。 障害児に対する保育・教育の歴史
3	障害の概念②障害とイメージ	「障害」と聞いたときに人が持つイメージから、障害の本質について理解を深める。障害理解教育についても理解を深める。
4	障害の概念③障害と福祉	障害児・者に対する福祉行政の問題から、今後の課題について理解を深める。
5	障害児保育の現状と課題①福祉・保育	障害児をめぐる福祉・教育の現状と課題について理解を深める
6	障害児保育の現状と課題②保健・医療	障害児をめぐる保健・医療の現状と課題について理解を深める
7	障害児保育の現状と課題③専門性	障害児保育と専門性の問題について理解を深める
8	障害児への支援①グループ研究	グループで相談し、グループ研究で取り扱う障害を選び、研究するテーマについての概要をまとめる
9	障害児への支援②グループ研究	自分たちの選んだ障害、テーマについて文献研究を行い、PPTのスライドを作成する
10	障害児への支援③グループ研究	発表のためのアンケートや実践、教材作りなどを行う
11	障害児への支援④グループ研究	アンケートなどの結果をまとめ、考察を行う。また、今後自分たちが身につけるべきこと、課題について考える
12	障害児への支援⑤グループ発表	障害に関する問題の中から、グループごとにテーマを選び、文献研究等で得られた知見を発表する。
13	障害児への支援⑥グループ発表	障害に関する問題の中から、グループごとにテーマを選び、文献研究等で得られた知見を発表する。
14	障害児への支援⑦グループ研究のまとめ	障害に関する問題の中から、グループごとにテーマを選び、文献研究等で得られた知見をレポートにまとめる
15	学習のまとめ	1回目から14回目までの学習内容についての理解度を評価するために試験（60分）を行う。試験の解説（30分）により理解を深める。

《学科教育科目》

科目名	教育相談	科目ナンバリング	C3031S◆○056
担当者氏名	大久保 恵		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 		

《授業の概要》

1. 教育相談、カウンセリングの理論、基礎知識を身につける。
2. 描画など心理検査などを体験して自己理解を深める。
3. 教育相談現場での実際を通して、実践的な力を養う。

《テキスト》

「エッセンス 学校教育相談心理学」
石川正一郎・藤井泰編著（北大路書房）

《参考図書》

「教師のための教育相談の基礎」久芳美恵子著（三省堂）

《授業の到達目標》

教育相談の基礎的な考え方を習得し、子どもの問題行動への理解を深め、その対応法を学んでいく。

1. 子どもの問題行動の裏側にあるその心理や発達の問題を理解することができる。
2. カウンセリングの技法や心理学の基礎的な知識について説明できる。
3. 保育現場で生じる子どもの問題行動に対応できる。

《授業時間外学習》

- ・教科書の指定箇所を読んでおくこと。
- ・授業中に配布するプリントを整理し、よく読んでおくこと。
- ・実習などで出会った子どもたちをよく観察し、授業内容に照らし合わせて、理解と対応を考えること。

《成績評価の方法》

1. 授業態度（20%）
2. レポート課題等の提出物（20%）
3. 期末試験（60%）

1の授業態度に関しては、授業に関係のない私語は厳禁とし、積極的に参加する姿勢を評価します。

《備考》

- ・講義の開始時に出席を確認します。
- ・授業や心理学に関する質問は、授業中や授業後でも対応します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育相談と自己理解	1. 教育現場とは 2. 授業のオリエンテーション 3. 自己理解のための心理テスト
2	教育相談の実際1	1. 不登校とは 2. その対応
3	教育相談の実際2	1. いじめについて 2. 非行について
4	パーソナリティとその理解1	1. 心の構造 2. 自我の防衛機制について 3. 心の発達
5	パーソナリティとその理解2	1. 教育相談で扱う心の病気とは
6	発達と教育相談	1. 子どもの発達（心理検査を通して）
7	発達障害と教育相談	1. 発達障害とは 2. 広汎性発達障害 3. LD 4. ADHD
8	カウンセリングとは	1. カウンセリングとは 2. カウンセリングマインドについて
9	カウンセリング体験	1. カウンセリングのロールプレイを行います
10	主な心理療法と心理検査	1. 主な心理療法について 2. 心理検査とは
11	描画体験とその理解	1. 描画体験 2. その説明
12	関係機関との連携・協働	1. スクールカウンセラーとは 2. 関係機関との連携について
13	問題行動とその対応	1. 幼児期、児童期、思春期に生じやすい問題行動をあげ、その具体的な対応方法や関係機関との連携の仕方を学んでいく
14	ケーススタディ	1. 具体的な事例を通して、子どもへの理解とその対応を深めていく
15	学習のふり返り	1. 学習の習得度について振り返る（テスト）

《学科教育科目》

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）		科目ナンバリング	C3032S◆●057
担当者氏名	福田 規秀、三浦 摩美、石川 恵美、杉田 律子、金谷 公子、小林 孝子、未定			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 			

《授業の概要》

教育委員会や幼稚園・保育所・認定こども園等から講師を招いての講義及びそれを基にした事例研究やグループ討議、実習の振り返りを行う。また模擬保育等を通して、教員（保育者）として必要な知識・技能を修得したことの確認を行う。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2008
 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 2008
 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 2015

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

○教職課程や保育士養成科目の履修により修得した知識・技能を基に、教員（保育者）としての使命感や責任感、教育的愛情を持つ。
 ○社会性や対人関係能力を身につけ、幼児理解を深めながら保育内容の指導力を向上させる。
 ○教員（保育者）の職務を支障なく実践できる資質・能力を獲得する。

《授業時間外学習》

課題に沿ったレポート、指導案の作成、発表（討論での意見、模擬保育等）の準備

《成績評価の方法》

課題（討議レポート、指導案等）50%、発表（討論での意見、模擬保育等）50%
 課題、発表については、講義内で講評を行う。

《備考》

幼稚園教諭免許、保育士資格を取得するための「総仕上げの授業」と心得て、積極的に学修することが望まれる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	建学の精神と保育科教育目的の再確認をする。
2	講義（1）	保育者としての成長や保育の課題等についての講義（附属幼稚園からの講師）
3	講義からの学び	第2週の講義内容に関する事例研究、グループ討論をする。学んだことを保育実践に繋げることができる。
4	講義（2）	教職の意義や教員（保育者）の役割、職務内容についての講義（教育委員会からの講師）
5	講義からの学び	第4週の講義内容に関する事例研究、グループ討論をする。学んだことを保育者としてのあり方・生き方に繋げることができる。
6	講義（3）	幼児理解や社会性、対人関係能力、保育内容の指導力についての講義（保育現場からの講師）
7	講義からの学び	第6週の講義内容に関する事例研究、グループ討論をする。またロールプレイなどにより学んだことを幼児理解や保育実践に繋げる。
8	模擬保育1	模擬保育のための指導案を作成する。（グループ別）
9	模擬保育2	模擬保育のための教材研究と指導案の修正をする。（グループ別）
10	模擬保育3	模擬保育のための教材研究と指導案の修正をする。（グループ別）
11	模擬保育4	模擬保育のための教材研究と指導案の修正をする。（グループ別）
12	模擬保育発表（1）	模擬保育に取り組むことで、より実践力を身につけることができる。
13	模擬保育発表（2）	模擬保育に取り組むことで、より実践力を身につけることができる。
14	模擬保育発表（3）	模擬保育に取り組むことで、より実践力を身につけることができる。
15	学修のまとめ	今までの学修を振り返り、自己成長感を確認することができる。